会議録

会　議　名		令和８年度 八王子市住民主体のまちづくり事業支援補助金懇談会
日　　時		令和８年（2026 年）８月 25 日（火） 13 時 30 分 ～ 15 時 50 分
場　　所		八王子市保健所　５階　502 会議室
出席者	参加者	多摩大学 経営情報学部 事業構想学科 教授：長島　剛 多摩信用金庫 価値創造事業部 地域支援グループ 官民連携担当 主任調査役：相川　孝史 公益財団法人八王子市学園都市文化ふれあい財団 理事長：瀬尾　和子 八王子市都市計画部長：今川　邦洋
	申込者	特定非営利活動法人まほうのほうき みんなでつくる図書館 学生団体カラクリ
	事務局	都市計画課：倉田課長、大武主査、木村主任、徳留主事
欠席者氏名		なし
議　　題		八王子市住民主体のまちづくり事業支援補助金活用事業について
公開・非公開の別		公開
非公開理由		－
傍聴人の数		なし
配付資料名		タイムスケジュール　・・・資料１ 計画書等（３団体分）　・・・資料２-１．２．３ 評価表　（３団体分）　・・・資料３-１．２．３ 補助金交付要綱　・・・資料４ 補助金交付要領　・・・資料５
会議の内容		１．開会・挨拶・事業説明等 事務局進行のもと、事業説明が行われた。 ２．補助金選定申込者によるプレゼンテーション等 （１）特定非営利活動法人まほうのほうき ア．プレゼンテーション 計画書等（資料２-１）に沿って、申込者のプレゼンテーションが行われた。 ア）事業名 八王子駅南口 地域つながり創出事業 ～まほうのほうき みんなの場づくり実験プロジェクト～

	イ）事業コンセプト 地域住民、地域団体、商店など多様な主体と本年 10 月に開業する「桑都の杜」をはじめとする地域資源をつなぐ場を創出し、新たな交流・活動・商業機会の創出を通じて、八王子駅南口周辺エリアの地域価値の向上と持続的なにぎわいの創出を図っていくことを目的とする。 ウ）事業内容 ① 八王子駅南口周辺エリアの地域価値向上とにぎわい創出に向けた実証実験 ② 多様な主体の意見把握と交流促進の仕組み検討 ③ 「多様な主体をつなぐみんなの場づくり」に向けた将来ビジョンを策定 イ．質疑応答 【参加者】 いくつか事実確認をさせていただきます。貴団体は、５年前に設立された NPO 法人ということでしょうか。 【申込者】 NPO 法人として認証を受けたのは本年 6 月です。それ以前は、約 4 年間にわたり任意団体として活動していました。 【参加者】 団体は申込者ご自身が立ち上げられたのでしょうか。 【申込者】 はい。 【参加者】 設立の経緯についてお聞かせください。 【申込者】 以前からボランティア活動などの市民活動に参加していました。また、自らも地域活動の場づくりに取り組みたいと考えていたところ、実家の隣にある空き家を居住目的で取得しました。しかし、事情により居住しなくなったため、その建物を地域活動の拠点として活用することにしました。 【参加者】 子安四丁目には以前からお住まいなのですか。 【申込者】 生まれた時から住んでいます。 【参加者】 地域のために何か貢献したいという思いから活動を始められたということでしょうか。 【申込者】 はい。そのとおりです。 【参加者】 ＮＰＯの賛助会員は一口 1,000 円とのことですが、現在どの程度の会員数がいるのでしょうか。 【申込者】 賛助会員は 6～7 名程度です。賛助会員の募集を本格的に開始したのは最近であり、それまでは正会員を中心に活動していました。 【参加者】 正会員は何名ですか。 【申込者】 23 名程度です。 【参加者】 会員からの会費によって運営されているということでしょうか。

	【申込者】　はい。 【参加者】　ＮＰＯの主な事業内容について教えてください。 【申込者】　駄菓子屋が主な事業となっており、運営を火曜日から土曜日まで行っています。また、こども食堂を月 2 回開催しています。 【参加者】　団体の主な収入源について教えてください。 【申込者】　主な収入は駄菓子屋の売上です。また、子ども服のリユース事業も行っています。地域の方から寄付いただいた衣類の一部を毎月開催される南口マルシェで販売し、活動資金に充てています。 【参加者】　今回のような補助金や助成金の申請は初めてですか。 【申込者】　まちづくり分野の補助金への申請は初めてです。 【参加者】　その他の補助金の活用実績はありますか。 【申込者】　高齢者福祉分野の住民主体による生活支援事業や、こども食堂に関する補助制度を継続的に活用しています。 【参加者】　既存事業に加え、新たなプロジェクトとして本事業に取り組みたいということですね。 【申込者】　そのとおりです。 【参加者】　事業内容に「多様な人々が交流できる仕組みの検討」とありますが、具体的にはどのような内容でしょうか。 【申込者】　子どもから高齢者まで、多世代が集い交流できる場づくりを想定しています。 【参加者】　現在の Yottette の活動を発展させるようなイメージでしょうか。 【申込者】　はい。現在も多様な方々が集まっていますが、さらに南口地域全体へとつながりを広げていきたいと考えています。 【参加者】　事業収支について伺います。駄菓子屋やこども食堂の運営において、利益は出ているのでしょうか。 【申込者】　年間で約 23 万円の利益があります。薄利多売ではありますが、年間を通じると一定の利益を確保しています。 【参加者】　人件費は発生していますか。 【申込者】　人件費はありません。 【参加者】　自己負担が発生している状況ではないということでしょうか。 【申込者】　はい、そのとおりです。 【参加者】　実証実験による居場所づくりについて、実施場所や実施方法のイメージを教えてください。 【申込者】　現時点では遊休不動産などの活用について具体的な候補はありませんが、今後検討を進めていく予定です。また、既に活用実績のある「子安濱村こかげ公園」において、これ

	まで以上に継続的なイベントを実施し、多くの方が集う場として活用したいと考えています。 【参加者】 複数の場所を活用しながら、スポット的にイベントを展開していくイメージでしょうか。 【申込者】 はい。 【参加者】 未来ビジョンの策定についてお伺いします。まちの姿、今後の活動の方向性のようなものを１年間かけて実証実験を行いながらまとめていくことになると思う。これまでの活動は福祉分野が中心だったと思いますが、今回の事業ではまちの魅力や賑わいの形成、商業振興なども視野に入っているように見受けられます。地域の課題が様々ある中で、どのような未来ビジョンの方向性を想定されていますか。 【申込者】 Yottetteには多様な世代や事業者、地域活動団体など様々な主体が集まっています。そうした方々が一堂に会し、地域にどのような賑わいを生み出せるのか、またどのような効果が期待できるのかを整理したいと考えています。その上で、地域の方々の意見も取り入れながら、地域の将来像を共有できるビジョンとしてまとめていきたいと考えています。 【参加者】 事業費について伺います。委託費、物品購入費、その他経費が計上されていますが､具体的な内容を教えてください。 【申込者】 委託費については、資料作成業務やイベントの企画運営支援に充てる予定です。その他経費については、専門家からの助言や協力に対する謝礼を想定しています。また、地域の医療・福祉関係団体等とも連携しているので、その協力に対する経費も見込んでいます。物品購入費については、屋外イベントで使用する机や椅子、案内看板などの備品購入を想定しています。 【参加者】 未来ビジョンの対象範囲が１丁目から４丁目と広く、多様な考え方を持つ住民がいると思います。今後作成するビジョンを効果的に活用していくために、どのように地域全体で共有を図っていくお考えでしょうか。 【申込者】 将来的には複数の地域拠点を設け、地域内のネットワークを広げていきたいと考えています。現在も自治会・町会関係者や学校関係者､商店会関係者とのつながりがあるため、その協力を得ながら住民への周知や参加促進を図っていきたいと考えています。全ての方の参加は難しいと思いますが、賛同いただける方々とともに取組を進めたいと考えています。 【参加者】 関係者の方々の意見を聞きながら策定したビジョンはどの

	ような形で共有する予定ですか。 【申込者】　冊子として取りまとめる予定です。 【参加者】　多くの方に共感が持てるビジョンにしないと浸透することは難しく、冊子を作成しても、関係者や地域住民の賛同がないと広がらないと思うので、作成したあとに徐々に関係者や地域住民に周知していくということですね。 【申込者】　はい。短期間で広く浸透させることは難しいと思いますが、継続的な周知に努めていきたいと考えています。 【参加者】　これまで活動されてきた福祉や子育て分野の活動は、同じ課題意識を持つ方々の共感を得やすく、良好なネットワークが形成されていると感じています。一方で、今回の対象地域は駅周辺で、住宅だけでなく様々な機能が混在しているため、合意形成が難しい地域であると認識しているが、どのように考えているか。 【申込者】　地域で生活する中で店舗関係者などとの交流もあり、一定の協力は得られると考えています。まちづくりに取り組むのは初めてで、実際に進めてみないと分からない部分もあるが、様々な方の協力を得ながら進めていきたいと考えています。 【参加者】　今年度は専門家の知見を取り入れながら進める段階と理解しているが、今後はそのノウハウを蓄積し、成果物や仕組みを活用しながら継続的な運営につなげてもらいたいと思います。地元住民が主体となって地域に根付きながら進めるまちづくりは、成功の可能性も高いことから、今後の取組を進めていってもらいたい。 ・質疑応答終了。 （2）みんなでつくる図書館 ア．プレゼンテーション 計画書等（資料2-2）に沿って、申込者のプレゼンテーションが行われた。 ア）事業名 みんなでつくる！憩いの図書館プロジェクト イ）　事業コンセプト 本事業は、八王子市加住地区の空き店舗等を活用し、学生と地域住民が主体となって創る多世代交流拠点（サードプレイス）の整備・運営プロジェクトです。最大の特徴は、業者任せにせず、床のタイル貼りや本棚づくりをDIYワークショップとして実施する点です。「作るプロセス」から地域住民や学生が関わることで、愛着と当事者意識を育みます。オープン後は「一箱本棚オーナー制度」や「日替わりのお当

	番」「チャレンジショップ」を運用することで、本や対話を媒介に多世代が自然に繋がるコミュニティを運営します。このようにして、持続可能なまちづくりにも寄与することを目指すプロジェクトです。 ウ） 事業内容 ① 空き店舗等の活用と共創型 DIY リノベーション ② 一箱本棚オーナー制度の運営 ③ 住民・学生による「お当番（ボランティア)」の仕組み ④ チャレンジショップの導入 ⑤ 交流を促す定期イベントの開催 イ．質疑応答 【参加者】本事業を主たる生計手段とするのではなく、別の活動と並行して取り組まれる予定という理解でよろしいでしょうか。 【申込者】代表者を中心に事業を進めていく予定です。私自身も運営を支援する立場で関わりたいと考えています。現時点では本事業を主軸とする予定はありませんが、そのような形になった場合にも対応できるよう準備を進めています。 【参加者】将来的には本事業を活動の中心としていきたいというお考えでしょうか。 【申込者】はい、そのように考えています。 【参加者】事業実施場所は創価大学周辺を想定されているのでしょうか。 【申込者】はい。現在は創価大学周辺のほか、滝山地区、丹木地区、加住地区などを候補地として検討しています。 【参加者】すでに物件の選定は進められているのでしょうか。 【申込者】現在、物件を探している段階です。 【参加者】物件は有償で賃借される予定ですか。それとも無償での利用を想定されていますか。 【申込者】無償利用は想定しておらず、賃料を支払ったうえで物件を借りる予定です。 【参加者】民間図書館を開設し、「一箱本棚」制度による利用料収入を主な収益源として運営していく計画でしょうか。 【申込者】はい。そのような運営を想定しています。 【参加者】収益面では厳しい状況も想定されますが、どのようにお考えですか。 【申込者】将来的には、ドリンクや軽食の提供なども行い、収益源の多様化を図りたいと考えています。 【参加者】今回の申請内容は DIY に必要な資材購入費が中心となっていますが､物件契約後に利用者も参加しながら施設整備を進める想定でしょうか。

	【申込者】はい。施設づくりの過程に参加していただくことで、利用者にも「自分たちの場をつくる」という意識を持っていただけると考えており、その点を大切にしたいと思っています。 【参加者】施設整備そのものをワークショップとして実施するということですね。 【申込者】はい、そのとおりです。 【参加者】今回の助成申請は、開設準備段階における一部の材料費等を対象としたものという理解でよろしいでしょうか。 【申込者】はい。初期費用や準備費用の一部をご支援いただくことで、その後は自立的な運営につなげていきたいと考えています。 【参加者】家賃等を含めた初期費用は相応の額になると思われますが、その費用は運営メンバーで負担する予定でしょうか。 【申込者】 現時点では運営メンバーでの負担を想定しています。ただし、事業計画としてはまだ十分に検討が必要な部分もあると認識しています。 【参加者】ワークショップの実施は意義があると思いますが、その後の収益構造についてはどのように考えていますか。 【申込者】「一箱本棚」制度による利用料収入に加え、飲食販売収入やSNS を活用した情報発信による収益化などを検討しています。 【参加者】SNS での収益化については、どのような方法を想定していますか。 【申込者】動画コンテンツ等の発信を継続し、一定の利用者や視聴者を獲得することで収益化を目指したいと考えています。 【参加者】「一箱本棚」制度は非常に興味深い取組だと思います。50 箱程度の募集を想定されているのでしょうか。 【申込者】はい。50 箱程度の設置を目標としています。 【参加者】申込者が自身の関心やテーマに沿って本棚を運営する仕組みという理解でよろしいでしょうか。 【申込者】はい、そのとおりです。 【参加者】収益性にも直結する利用料の設定については、どのように検討されていますか。 【申込者】適正価格については今後の検討課題ですが、事業収入の重要な柱になると考えています。 【参加者】収支計画について、固定費や家賃等を含めた試算はされていますか。 【申込者】現時点では、家賃や光熱費を含めて月額 10 万円程度の経費が必要になると想定しています。一方で、「一箱本棚」のみでは十分な収入確保が難しいため、不足分は自己負担や他の収益源で補う必要があると考えています。具体的なバランス

	については、実際に運営しながら検討していきたいと思います。 【参加者】クラウドファンディングについて、目標額はありますか。 【申込者】目標額は 50 万円程度を想定しています。過去に個人でクラウドファンディングを実施した際には 25 万円の支援をいただいた実績があり、これまで築いてきた人とのつながりを活かせば、目標達成の可能性はあると考えています。 【参加者】地域住民主体のお留守番制度や図書館づくりの施設整備については、面白い取組と思っている。利用者や地域住民と共に進める予定でしょうか。 【申込者】はい。そのように進めたいと考えています。 【参加者】事業を継続していく上では、資金面が一番心配な点ではあるので、計画的に進めていく方が良いと思うので頑張っていただきたい。 【参加者】現在実施している月例の「みんとしょ会」は、約 1 年間継続しているのでしょうか。 【申込者】はい。約 1 年間継続しています。 【参加者】運営は主に 3 名で行っているのでしょうか。他に関わっている人はいますか。 【申込者】企画内容の検討は主に 3 名で行っていますが、参加者は毎回異なり、SNS や地域のつながりを通じて幅広い方々にご参加いただいています。 【参加者】活動は加住市民センターで実施しているのですか。 【申込者】はい。 【参加者】参加者は地域住民や学生が中心でしょうか。 【申込者】加住地区の住民の方が多いですが、大学生や大学職員のほか、SNS を通じて他地域から参加される方もおり、多様な方々にご参加いただいています。 【参加者】加住地区で、学生だけでなく地域住民を巻き込んだ多世代型コミュニティづくりを目指すようになった理由を教えてください。 【申込者】加住地区の地域づくり推進会議への参加を通じて地域とのつながりが生まれたことがきっかけです。その後、地域交流機会の不足や、一人暮らしの学生・住民が抱える課題などを見聞きし、多様な人々が集える場の必要性を感じたことがきっかけとなります。 【参加者】多世代交流の場として非常に魅力的だと感じます。一方で、事業化に向けては運営体制や人員確保も重要ですが、オープン時の人員だったり時間だったりを具体的に教えてください。

	【申込者】施設整備段階ではDIYワークショップを開催し、多くの方に参加いただきたいと考えています。現在は主に 3 名で活動していますが、地域の方々（57 名程度）からも協力をいただいており、地域内のネットワークも活用しながら進めていきたいと考えています。 【参加者】　開設後の運営スタッフについては、ボランティアで行うのか有償なのか、どのように考えていますか。 【申込者】現時点ではボランティアによる運営を想定していますが、具体的な体制については今後検討していく予定です。 【参加者】図書館の蔵書はどのように確保する予定ですか。 【申込者】「一箱本棚」制度を中心に運営するため、初期段階では関係者や協力者から本を持ち寄っていただくことを想定しています。 【参加者】居場所づくりについてはどのようなイメージをお持ちですか。 【申込者】多様な方々が利用できる場にしたいと考えています。レイアウトや空間づくりについても、多くの方の意見を取り入れながら決定していきたいと思います。 【参加者】アンケート結果から、加住地区では交流の場に対するニーズが高いことが分かりました。若い世代が主体となり居場所づくりを考えてくれていることは心強く感じている。地域を巻き込みながら取り組んでいただきたい。一方で事業の継続性には課題もあると考えられるので、今後も検討をしていってもらいたい。50 箱分の利用者については、どの程度見込みがありますか。 【申込者】これまで関わりのあった方々を中心に、40 名程度は見込めると考えています。残りについては今後広く周知し、募集を進めていきたいと考えています。 【参加者】大学生の参加も積極的に促していく予定でしょうか。 【申込者】はい。積極的に参加していただきたいと考えています。 【参加者】運営メンバーの拡充についてはどのように考えていますか。 【申込者】　将来的には 10 名程度の運営体制が望ましいと考えています。一方で、「みんなでつくる」という理念を大切にしながら、運営や当番など様々な役割を多くの方に担っていただける仕組みを目指しています。 【参加者】視察先である木更津の事例では、同様のビジネスモデルで運営されているのでしょうか。 【申込者】木更津の事例では駅高架下の施設であり、運営面では駅側からの支援を受けていると伺っています。また、「一箱本棚」制度も活用されています。

	【参加者】今回の計画とはビジネスモデルが異なるように思われます。赤字となった場合はどのように対応される予定ですか。参加者が出資するのか、地元企業の応援とかは見込んでいますか。 【申込者】自己負担をしてでも実現したいという思いが強くある。自分たちだけの負担だと、みんなでつくるという本質的なところが違うとも思うので、自立的に運営できる仕組みを学びながら構築していきたいと考えています。 【参加者】一箱本棚だけでは収支面で厳しいことが予想されるので＋αの取組を構築していくことを考えて、収益確保の方策を検討し頑張ってもらいたい。 （３）学生団体カラクリ ア．プレゼンテーション 計画書等（資料２-３）に沿って、申込者のプレゼンテーションが行われた。 ア）事業名 八王子共創フェス イ)事業コンセプト 新施設「桑都の杜」の持続可能なイベント活用モデルの構築と、若者（学生）のまちづくり参画への「出発点」の創出。「桑都の杜」は八王子の新たな拠点となる一方、「駅から約 800mの坂道」「駐車場不足」「大規模イベント運営ノウハウ（マニュアル）の不在」という課題を抱えています。本事業は、市内の学生リソースを最大限に活用し、約 3,000～7,000 人規模の動員実証を行うことで「立地の不利を覆す集客方法」と「安全な会場運営モデル」を検証・構築することを目的とします。 ウ)事業内容 ①空間・動線実証 施設内外に「遊・食・創・職」のコンテンツを戦略的に配置し、来場者の回遊動線、滞留ポイント、避難経路のデータを蓄積します。 ②共創ワークショップ 施設内で地域企業や行政のリアルな課題（廃材活用、若者政策など）をテーマにしたワークショップを実施し、学生と地域の直接的な接点作り ③マニュアル化と還元：本イベントを通じて得られた来場者管理、警備体制、動線設計の知見をまとめ、今後の施設運営に資する「桑都の杜運営マニュアル」として市・事業者へ提出します。 イ.質疑応答 【参加者】どのような経緯で八王子駅南口エリアに関心を持たれたのでしょうか。

	【申込者】 もともと八王子との直接的な関わりはありませんでしたが、在籍している明星大学が八王子市との産学連携に取り組んでおり、授業の中でも八王子市のまちづくりや地域資源について学ぶ機会がありました。 2 年次の授業で「桑都の杜」の PR 企画に取り組んだことをきっかけに施設関係者とのつながりが生まれ、その後、卒業研究を通じて継続的に関わるようになりました。指導教授と相談しながら活動場所を検討する中で、自分たちの目指す取組と桑都の杜が目指す方向性に共通点があると感じ、八王子駅南口エリアでの実施を決定しました。 また、公園の指定管理者や関係団体とも連携しており、本事業についても後援や協力をいただいています。 【参加者】事業全体の予算として約 300 万円を想定されているが実現可能ということでしょうか。 【申込者】はい。総事業費として約 300 万円を見込んでいます。 工務店や建築士の方々から車両、場所、資材等の提供や技術的な助言など、多くのご協力をいただいており、経費を抑えながら準備を進めています。資料に掲載しているゲートについても、工務店や建築士の方々と協力して製作しています。 【参加者】仮に補助金額が希望額に満たない場合でも実施は可能でしょうか。 【申込者】予算規模が縮小した場合、装飾や広報等の面で事業の規模や品質に影響は生じると考えています。しかし、本事業中心となる展示企画や回遊型企画については、関係者との協力のもと実施可能であると考えています。 【参加者】安全管理やリスクマネジメントについて伺います。万が一事故等が発生した場合の責任体制はどのようになっていますか。 【申込者】責任体制については重要な課題として認識しています。現在は任意団体として活動していますが、運営にあたっては実績のあるイベント運営事業者や施設管理者と連携しており、保険加入や安全対策などは法人格を有する団体にも協力いただいています。責任のバランスは分散されるものと考えています。あわせて、運営マニュアルや警備計画等も整備し、安全管理体制を構築していきます。 【参加者】スタッフへの日当等は支給されるのでしょうか。 【申込者】現在の運営スタッフは基本的にボランティアで活動しています。クラウドファンディングによる人件費の確保も検討していますが、十分な報酬を支給できる状況にはありませ

	ん。 【参加者】事故等が発生した際の対応責任については、事前に役割分担を明確にしておくことが重要です。運営側、施設側、協力事業者側の責任範囲を整理したうえで事業を進めていただきたいと思います。 【参加者】今回の資金計画について確認ですが、総事業費 300 万円のうち、補助金の支給額が仮に 150 万円になっても実施は可能という理解でよろしいでしょうか。 【申込者】当初から補助金に依存せず事業を実施することを前提に計画しています。クラウドファンディングによる 150 万円と協賛金等による資金調達を予定していますが、資金調達が計画どおり進まない場合に備え、補助金による支援をお願いしたいと考えています。 【参加者】事業終了後に作成を予定している「桑都の杜活用手引書」について、具体的な内容を教えてください。 【申込者】桑都の杜は八王子駅南口からの距離があり、利用ルールや施設運営に関する情報も十分に整理されていない部分があります。実際にイベントを企画する中で、動線や利用方法、施設ごとのルール確認などに多くの時間を要しました。 そのため、施設利用に必要な情報を整理し、イベント開催時の留意事項や施設利用方法、駐車場・動線計画などをまとめた活用手引書を作成したいと考えています。完成後は施設内や市役所等での配布を想定しており、データ化も行い広く活用できるようにする予定です。 【参加者】この手引書は収益事業として活用する予定でしょうか。 【申込者】現時点では収益化は想定していません。施設管理者との協議の中で必要性が示されたことを受けて作成を検討したものであり、主な目的は施設の利活用促進と地域への還元です。 【参加者】企画内容にある「回遊クエスト」について詳しく教えてください。 【申込者】具体的な内容は現在施設関係者と協議中ですが、「探検秘密基地」というコンセプトに基づき、参加者が施設全体や周辺エリアを回遊できる仕組みを想定しています。来場者に特定の場所だけでなく、施設全体や周辺地域を巡りながら楽しんでいただくことを目的としています。 【参加者】本事業は単なるイベント実施ではなく、施設開業後の人の流れや動線を検証するまちづくりの実証的な側面もあるという理解でよろしいでしょうか。 【申込者】はい。そのとおりです。八王子駅南口から桑都の杜までのアクセスや来場者の移動状況などを把握し、今後の施設活用や

	地域活性化に活かしたいと考えています。また、得られた知見を手引書として整理していくことで、まちづくりに繋がっていくものと考えています。 【参加者】イベントの成果だけでなく、来場者動線や警備体制等の検証データを蓄積し、手引書として残す点は意義が大きいと感じます。 【参加者】とちの木通りの活用については、具体的な計画がありますか。 【申込者】道路を全面的に活用する計画はありませんが、案内サインやのぼり旗の設置などによる情報発信を検討しています。また、周辺店舗とも連携し、地域全体の回遊促進につなげたいと考えています。 【参加者】来場者を周辺商店や地域事業者につなげていく視点も重要だと思いますので、その点についてもご検討いただければと思います。これまでに同規模のイベントを開催した経験はありますか。 【申込者】本団体は本年4月に設立した団体であり、本格的な大型イベントの開催は今回が初めてとなります。ただし、地域や企業の協力を得ながら準備を進めており、今後も継続的な活動を視野に入れています。単にイベントを実施する団体ではなく、学生が主体的に取り組みを実現できる環境づくりを目指しています。 【参加者】桑都の杜開業後、初期の大規模イベントとなる可能性もあります。市とも十分に連携しながら、安全面に配慮して進めていただきたいと思います。 【参加者】複数の学年で運営体制を構築していることから、来年度以降も継続的な活動を想定されているのでしょうか。 【申込者】はい。現在の中心メンバーは4年生ですが、下級生にも運営に参画してもらっており、今後は次世代へ活動を引き継いでいくことを想定しています。また、法人化についても検討しており、将来的には法人が母体となり、その中で学生団体が活動を継続できる体制を構築したいと考えています。 ・質疑応答終了。 3．閉会 懇談会での意見等を踏まえ、市都市計画課にて補助金交付予定者を決定する旨事務局から説明があり、会が閉会した。